

佐久地域の横断的な課題(案)

【令和5年度】

(◎:新規事業、○:従前事業の拡充、△:従前事業の継続)

R5横断的な課題	R5施策の柱	具体的な事業概要(下線:地域振興推進費を活用)
「晴れやかな空の下、心晴れやかに暮らす」確かな生活基盤づくり	1 医療・介護・生活支援の更なる充実と教育の強化 2 広域的な公共交通施策の推進と暮らしを守るインフラの整備 3 豊かな自然環境の保全や、地域の特性を活かした脱炭素 4 地域に息づく文化の継承	◎食育の推進と身体活動・運動習慣の普及のため、関係機関・団体等による連携会議の開催
		○ポールウォーキング講座や普及啓発シンポジウム開催による、健康づくり・フレイル予防に向けた取組
		○運動用具の整備及び貸出、健康づくりに関する運動講座への講師派遣、健康づくりボランティアを対象としたフォローアップ講座開催等による、住民主体活動の支援
		◎佐久産業支援センター(SOIC)との連携による、中小企業等と福祉・医療機関等とのマッチング、新たな製品の試作開発や販路開拓支援
		○地域イベントでのプレメディカルケア産業関連製品のPRと健康長寿への取組の推進
		◎高校再編を契機とする地域の「学びの広場(仮称)」の展開(ゼロ予算)
		◎官民連携による広域的な公共交通施策を推進、及び長野県地域公共交通計画策定に向けた取組
		◎佐久地域の医療体制整備
		△農地、農業用施設、林道施設、道路、河川等の復旧・改良
		△土砂災害・治山対策の推進
		△遊水地整備に伴う農地の調整
		◎二ホンジカの食害による森林などの生物多様性への影響を調査・検証
		◎ゼロカーボン社会の体験を織り込んだゼロカーボンミーティングを開催
		△県産木材を活用した高断熱性能を有する住宅の新築・改築に対する助成の実施
△カラマツの主伐と伐採後の再造林による森林の適正管理、持続可能な林業経営の支援		
◎御影用水の保全と歴史教育の実施		
◎佐久地域の伝統食の振興と食文化の普及促進		
「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり	1 農林水産業、商工業の振興 2 新たな価値観・行動を捉えた広域観光の推進	◎佐久産農畜産物の地産地消の地域内流通体制を確立するため、佐久産農畜産物食材リスト一覧を作成・配布し、宿泊施設等農畜産物利用流通実態調査及び調査結果を集計
		◎農畜産物流通業者と宿泊施設等と佐久産農畜産物のマッチング(商談)、サンプル品提供
		◎生食ブルーの市場調査及び発信戦略の策定、PRアイテムの作成
		◎木のある暮らしのきっかけづくりのための、情報発信コンテンツの作成と森林環境教育の実施
		○二次交通の利活用と併せた日本酒・ワインの魅力発信
		○JR東日本等と連携し、自転車持込可能なイベント列車を運行
		○佐久地域の魅力を盛り込んだサイクルツーリズム推奨ルートの情報発信(ウォーキングコースを含む)(ゼロ予算)
◎ハケ岳を一周するサイクリングコースを開発し、関係団体との意見交換を実施(ゼロ予算)		
「教育が人を呼び込む」首都圏からの利便性と人を活かした地域づくり	1 移住・定住、交流人口・関係人口の増加に向けた取組の推進	○二地域居住希望者向け移住・コワーキングスペースツアーの開催
		◎「農ある暮らし」による農業移住や「おためしナガノ」によるIT・デザイン系人材移住など、仕事のしやすさの魅力を発信
		◎テレワーク・ワーケーションを推進する団体等と連携し、新たな事業の開拓と新規開業を支援
浅間山の防災体制の強化	1 広域避難計画の策定	△防災セミナーの開催及び防災訓練の実施並びに広域避難計画の策定
		△火山噴火活動の監視・観測体制を維持するため、浅間山火山噴火警戒避難システムを改修
		△浅間山の特性及び地域との関連性を考慮し、佐久地域において必要な火山防災の啓発体制を検討
		△山岳専門メディア等のWebサイトを活用した情報発信(ゼロ予算)
中部横断自動車道の整備促進	1 早期の全線開通に向けた連携強化 2 周辺道路網の調査及び整備	◎山梨県等との連携を強化し、未整備区間である長坂JCT(仮称)から八千穂高原ICまでの建設促進のため、国への要望活動を推進
		◎全線開通を見据えた、物流・貿易・企業誘致・観光などの分野での利用促進
		◎中部横断自動車道の効果を最大限生かすため、道路網の調査及び整備

(参考)

地域の 特長と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康づくり活動が活発で医療体制も充実しているが、高齢化が進み、健康寿命が必ずしも長くないことから、医療・介護・生活支援の更なる充実が必要。</li> <li>○工業系・IT系の学校が少なく、高校生は他圏域や県外に流出していることから、地域力を活かした個性的で、子どもから選ばれる教育環境を整備していく必要がある。</li> <li>○公共交通を民間事業者の独立採算により維持することは困難なことから、持続可能な公共交通システムの構築に向けた検討が必要。</li> <li>○小海線・しなの鉄道の沿線住民と観光客の移動手段を守るため、関係者が一体となって鉄道の利用促進に取り組むことが必要。</li> <li>○近年の激甚化・頻発化する災害を踏まえた風水害から暮らしを守る基幹インフラの整備が必要。</li> <li>○豊かな自然環境の保全や、地域の特性を活かした脱炭素に向けた取組が必要。</li> <li>○将来にわたって持続可能な農林業となるよう、今後を見据えた施策が必要。</li> <li>○デジタル化、脱炭素化、循環型経済への対応を強化し、ITやデザインといった新たな成長産業の創出・振興が必要。</li> <li>○自然環境を活かしたアウトドア・アクティビティの充実や豊かな農畜産物を活かした食事や地元産の日本酒・ワイン・ビール・ウイスキー等の魅力を発信し、ブランド力の向上が必要。</li> <li>○首都圏からの利便性を活かし、新幹線や高速バス、自家用車により多くの観光客が訪問することから、環境負荷の小さい二次交通の整備と、EVIに対応した観光地づくりが必要。</li> <li>○地域内に魅力ある小・中学校や幼稚園等が多く、県内外から人々を引き付けている地域性を活かし、子育て世代の移住者の更なる取り込みと、定住し続ける環境づくりが必要。</li> <li>○コロナ禍を契機とした地方回帰の機運が高まる中、首都圏からの利便性を活かし、交流人口・関係人口を増加させる取り組みが必要。</li> </ul>
--------------	---